



さあ炊き上がった!...はてさて、これはどこの何て料理? それは読んでのお楽しみ!

エッ、現役KSD教授が「丼もの」のレシピ集を発表!?  
 前代未聞、「問いを炊いて世界を食べる」壮大な実験!

## 炊飯器で世界をめぐる「ハテナ丼」の旅

大学教授が「問い」を炊いて世界を食べる

佐藤賢一

◆ジャンル: 料理/食文化

「This is my life (自炊こそわが人生)」——料理は素人でも、「問いづくり」はプロ?

この本を書いたのは、まな板よりもホワイトボード、計量カップよりもフラスコ、火や味の加減よりも問いの立て加減に人生を賭けてきた大学教授である。料理はもちろん素人だが、炊飯器と好奇心さえあればなんとかなるものだ!

「なぜ、この国ではこの組み合わせ、この味なのか?」「この料理は、どんな暮らしから生まれたのか?」「それをご飯に乗せたら何が起きるだろうか?」——こんな「問い」からはじまったのが、「世界21地域×丼×炊飯器」という前代未聞の「問いの実験」であった。

フィンランドのサーモンクリームは、なぜこんなに静かでやさしいのか。モロツコのクスクスは、なぜ分かち合いの構造をもっているのか。台湾の魯肉飯は、なぜ夜市の雑多さと美味しいのか。料理スキルのない大学教授が、文化を読み、構造を考え、「炊飯器で炊く」という形でこうした各地のすばらしい料理を再構成した。その結果生まれたのが、単なるレシピ本でも、学術書でもない、「問いを炊いて世界を食べる本」である。

本書は、料理がうまくなりたいたいのための本ではない。世界のあちこちの食文化を楽しく味わいたい、とにかく作ってみたい、あるいは食べてみたい人、そして、「なんで大学教授がこんなことを……?」と思わずニヤツとしてしまった「あなたのための本」です。炊飯器一つで、世界と文化、そして問いを炊きあげた。なぜそんなことをしたのかは、ページをめくればお分かりいただけるだろう。さあ、KSD教授が考えた丼もののレシピで、世界をめぐる旅へ出発しよう!

(さとう・けんいち)

ISBN978-4-7948-1309-1 3月下旬刊  
 四六並製 予一七〇頁 予二四二〇円

大学での学びをハックする

(21世紀のアカデミックスキル)

短期集中セミナー

ザカリー・シヨア/佐藤賢一 訳 二六四〇円

問いチカラの本

(問いをハックする、問いで学びを開く)

佐藤賢一 二六四〇円

ハテナソンの本

(「問いづくり」への旅)

佐藤賢一 二四二〇円

著者 京都産業大学(時々KSD)の現役教授。専門は生命科学。料理は完全な素人だが、問うことと食べることにかけてはかなり〇〇〇な人。好きな問いは「今日の晩ご飯は何か?」。著書に「ハテナソンの本」「問いチカラの本」、訳書に「大学での学びをハックする」など。



幼い頃から自然に親しんできたバロースにとって、自然と文学は切り離せないものだった。写真は川で釣りを楽しむ著者（1906年）

アメリカ自然文学の基礎を築いた作家が、博物学の知識と奥深い思索によって「科学と詩」を結ぶ自然随筆の傑作

# 鳥と詩人

自然と文学を愛する人たちへ

ジョン・バロース / 田中浩司 訳

◆ジャンル：アメリカ文学 / 自然随筆 / 博物学

本書は、一九世紀アメリカの博物学者・自然随筆家ジョン・バロースによる随想集『Birds and Poets』の全訳である。

バロースは、エマソンやホイットマンの思想的影響を受けつつ、実地の観察に基づく自然描写と文学的省察を結びつけ、アメリカ自然文学の基礎を築いた作家として位置づけられている。その文章は、科学と詩、理知と感情の間に節度ある均衡を保ち、自然を語りながら人間の精神のあり方を静かに問い続けるものとして高く評価されてきた。

本書には、コマツグミ、マネシツグミ、ルリツグミ、タイランチョウ、ボボリンクなど、アメリカの自然に生きる多くの鳥たちが登場する。バロースはそれらを分類学的に整理するのではなく、鳴き声や行動、季節との関わりといった生きた印象を丹念に書き留めながら、文学が自然とどのような関係を結んできたのかを考察している。シェイクスピアやワーズワース、キーツらの詩に現れる鳥の表現を読み解きつつ、想像力が現実から遊離するときを生じる空虚さと、実感に裏打ちされた言葉がもつ持続的な力とを対比させる。自然は、詩的効果のための素材ではなく、まず向き合うべき現実であるという確信が、本書の批評的眼差しを支えている。その問いは、自然から遠

ざかった現代人だけでなく、野鳥観察などを通じてすでに自然に親しんでいる読者にとっても、自然との関わり方や自然を見る眼差しの質を省みる契機となるだろう。

効率や情報の速度が優先され、言葉が即時的に消費されがちな現代日本において、本書が示す態度はなお示唆に富む。具体的な鳥の姿に根ざした思索は、知識として自然を消費するのではなく、経験として自然を消費することの大切さを教えてくれる。翻訳にあたっては、原文の落ち着いたリズムと抑制された語り口をできる限り損なわぬよう心がけた。自然と文学、そして自らの感性との関係を静かに問い直す一冊となれば幸いである。（たなか・こうじ 防衛大学教授）

ISBN978-4-7948-1308-1 4月下旬刊  
四六並製 予四〇〇頁 予四九五〇円

## オーデュボンの鳥

〔アメリカの鳥類〕セレクション

ジョン・ジェームズ・オーデュボン 二〇〇円

フランシー・オコナーとの和やかな日々

〔オーラル・ヒストリー〕

ブルース・ジェントリー 他 / 田中浩司 訳

三七四〇円

フランシー・オコナーのジョージア

〔20世紀最大の短編小説家を育んだ恵みの地〕

サラ・ゴードン / 田中浩司 訳 二六四〇円

著者 John BURROUGHS (1837~1921) 19世紀後半アメリカを代表する自然随筆家・博物学者。厳密な自然観察に文学的表現を結びつけ、自己の体験に即した自然の捉え方を精緻に記述した。その姿勢は自然随筆のあり方に一つの指標を与え、自然保護思想の形成にも影響を与えた。



教師は「なりたい職業No.1」か、「最も避けたい職業」か？  
ありのままの記録を通じて、その魅力とやりがいを改めて提示

# 教育現場の闇と光、 そしてエール

「晴れ上がり」の教育は訪れるのか

志麻克己

◆ジャンル：教育

東京大学社会科学研究所などが行った「子どもの生活と学びに関する親子調査」によると、中高生のなりたい職業の第一位が「教員」であることは、この一〇年間で変化がなかったという。一方、文部科学省調査では、二〇二四年度の公立学校教員採用試験の採用倍率（二・九倍）と受験者数がともに過去最低を記録したと報じられた。採用倍率はとりわけ小学校が二・〇倍と低かった。また、高知県教育委員会によると、昨年度の小学校教師の採用試験では、合格者二六〇人のうち一六〇人が辞退（二月三日時点）し、採用予定人数に達しないということだ。「追加募集」を行ったようだが、相反したこの二つの事象を、いったいどのように考えたらいいのだろうか。

本書は、教員となって半世紀近くを迎えた筆者が経験した学校教育の「闇」と「光」の部分を取り上げたものである。二〇〇九年にブログを開設した筆者は、そこで様々な教育現場の現状を紹介してきた。それらの記事を改めて整理し、「考え」をまとめたものが本書である。

「闇」の章では、学校現場の「息苦しさ」や「重苦しさ」について述べ、異常な労働激増職種として「誰が倒れても不思議ではない」実態を記している。理不尽な教育統制、横並びを強制する風潮と学校の縦社会、疲弊しバーンアウトする教員

——その実態を知った上で、それでも教員を目指したいと思う人は多分いないだろう。しかし、これが本書を発行する「ねらい」ではない。

後半の「光」の章では、教員という職業には、それでもなお「魅力」や「やりがい」があることを記述した。掲載した事例はいずれも筆者自身が経験したものであり、長いあいだ教員を続けてこられた源泉ともなっている。楽しく賢くなる授業を目指して子どもたちと共に学ぶ喜び、仲間と力を合わせて理不尽さと闘った経験、子どもの様子を伝える学級通信の発行、そして学級担任の魅力、すべてがこの職業の素晴らしさを物語っている。ぜひ読んでいただき、「やはり教員は魅力的な職業」だと感じてもらえればと願う。（しま・かつみ）

ISBN978-4-7918-1307-7

4月上旬刊

四六並製 二五六頁 予二六四〇円

好評刊

ざんねんな先生

〔教育界初！「非常識な現場」を大告白〕  
有馬心一朗 一九八〇円

ざんねんな教育環境

〔現職教師が語る「学力格差」の実態〕  
有馬心一朗 二二〇〇円

著者 1953年、群馬県前橋市で生まれる。中央大学法学部法律学科卒業後、教育社会学の研究を目指し、埼玉県学校事務を行った後、東京都の小学校の教員になる。当初の志が変容し、「やみつきになった」教員を続けている。

## エコロジイ階級の登場についての覚書

ブルーム・ラウトウィル十二(三)ライ・シユルツ  
川村久美子 訳・解説

この新しい階級概念は、私たち一人ひとりの明日の姿を描いている。人間を大地につなぎ直す大いなる反転。

四六上製 二〇〇頁 予二四二〇円



## 女を憎めと教わった

ホーリーヌ・フェラーリ/ダコスタ吉村花子 訳

〔SNSで拡がるマスキュリズムの闇〕 世界中で猛威をふるう男性優位主義と女性への暴力。SNSを通じたその拡散・増幅のメカニズムを読み解き、早期教育の必要性を説く。

ISBN978-4-7948-1306-0 近刊

四六並製 予二六四頁 予二八六〇円

著者 Pauline FERRARI ニューテクノロジー、ジェンダー、ウエブカルチャーを専門とするフリージャーナリスト。訳者 翻訳家、A・デルビエール「富豪に仕える」など訳書多数。

## ラーゴムが描く社会

鈴木賢志

〔スウェーデンの「ちょうどよい」国づくり〕 何(こと)につけ「ほどほど」をよしとする哲学の奥深さに学ぶ。

四六並製 二二四頁 二四二〇円



## 一神教のラテンアメリカ

乗浩子

〔ユダヤ教・キリスト教・イスラム教をめぐって〕 多様な信仰が入り交じる宗教的実態から鮮く異色の中南米・カリブ社会史。

A5並製 二五六頁 三二五〇円



## ちよつと自慢できる京都の話

勝又郁子

〔平安京創生館「で知る都」〕 二〇〇年の古都に平安京の姿を追い求め、その魅力を移住者目線で綴る。

四六並製 二二四頁+増四頁 二四二〇円



## 異文化市場の解説法

川端基夫

〔「意味づけ」の国際比較〕 海外市場進出・インバウンド戦略の洗練に役立つ「意味づけ」に着目した画期的市場論。

四六並製 二二二頁+増四頁 二七五〇円



## 地方財政調整制度史

中村稔彦

〔総額決定方法と配分方法〕 これまで解明されていない各制度内容の詳細や運営実態の全容解明に迫る！

A5上製 四〇四頁 六三八〇円



## 福島県浪江町

関満博

震災14年、多重被災を越えてまちの再構築にいとむ浪江町の歴史と現在を受け止めつつ、背景、復興状況、産業化の進展を注視。

A5上製 七〇四頁 九九〇〇円



「中日新聞」紹介  
ISBN978-4-7948-1301-5



**訪問看護師ものがたり**  
嶋守さやか

〔こ在宅の力〕 自宅で最期まで「生ききる」ことを諦めない人たちがどう支えるか。6人の現役が在宅看護の実情とやりがい語る。四六並製 二二〇頁 二二〇〇円

好評刊  
ISBN978-4-7948-1296-4



**マルグリット・デュラス その愛の行方**  
佐藤浩子

失われゆく過去、内なる闇、狂おしい愛。没後30年を迎える世界的作家の創作の源泉に迫る本格文学研究。四六並製 三三〇頁+別冊四頁 三〇八〇円

好評刊  
ISBN978-4-7948-1303-9



**問いチカラの本**  
佐藤賢一

〔問いをハックする、問いで学びを聞く〕 「問いの力」をめぐる人々との対話と共創実践から生まれた〈問いの技法大全〉。四六並製 二二二頁 二六四〇円

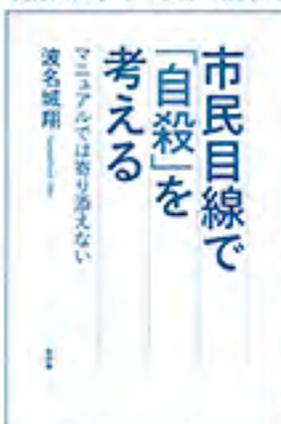
「日本教育新聞」書評  
ISBN978-4-7948-1298-8



**ファシリテーション生徒指導**  
山中信幸

〔対話が生みだす学びの共同体〕 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための支援・促進型指導を詳説。四六並製 二六八頁 二四二〇円

近刊  
ISBN978-4-7948-1305-3



**市民目線で「自殺」を考える**  
波名城翔

〔マニュアルでは寄り添えない〕 寄り添う人の「声」に耳を傾け、共感と対話の予防策を提示する。四六並製 二〇〇頁 二四二〇円

「図書新聞」書評  
ISBN978-4-7948-1287-2



**アイルランドから東北へ**  
佐藤亨

〔周縁と漂着の詩学〕 文学・民俗・歴史をよすがに、詩学的世界と現実世界を横断する故郷論。四六上製 三三〇頁 三九六〇円

好評刊  
ISBN978-4-7948-1285-8



**大学での学びをハックする**  
佐藤賢一

ザカリー・シヨア／佐藤賢一訳  
〔21世紀のアカデミックスキル短期集中セミナー〕 五つのスキルがあなたを変え、全ての学生・研究者必読の書！ 四六並製 二四八頁 二六四〇円

好評刊  
ISBN978-4-7948-1302-2



**「考える教室」をつくる**  
梅本卓也

〔授業はここまで変えられる〕 生徒も教師も算数・数学が好きになる「答えのない教室」の理論的・実践的ルーツとノウハウ満載！ A5並製 三九二頁 四九五〇円

津久井聖志『なんで学校は変なの?』——教員の父に教育実習生の娘がストレートな質問!

## 管理職には、教員や保護者に 安心を与える「力」になってほしい

■自著を語る・津久井聖志

(教育講演家)

『週刊教育資料』2025年9月15日号

きっかけは娘の一言……

「パパ、なんで学校は変なの?」  
毎晩、教育実習生の娘が、校則や生徒指導、進路指導のことなど次々と質問をぶつけてきました。正直、「なにも知らないくせに」とムツとしたのを覚えています。ですが、よくよく聞いてみると娘の質問は、これまで生徒や保護者から聞いてきた不満とはほぼ同じだったのです。

実習中、娘からは学校の中で納得できないこと、私からは教員の思い、そうせざるを得ない理由について、毎晩話し合いました。話し合い、いや、バトル(笑)を重ね、娘は「先生たちは生徒の今だけでなく、未来を見据えている」ことを理解していきましました。しかし、保護者には、そうした時間も対話の機会もありません。疑問や不満を抱いたまま、置いてきぼりのままなのです……。  
子どもは「家庭」と「学校」という二つの世界を生きています。もし保護者が、その一方の世界を

信じられないとしたら、子育てはうまくいくはずがありません。ならば、学校の内側を「見える化」すればいいのではないかと。そんな思いで、親子の対話を通して学校教育の問題点を直視しつつ、未来への希望を見いだす新たな視点も提供したつもりです。

学校を「見える化」したら

保護者の不満が信頼に変わる。学校はまるでブラックボックス。校則、生徒指導、進路指導、何が起きているのか、どうしてそうなるのか……外からは見えないから、結局よく分からない。そして、いつしかそれが不満や不信を生んでしまうのです。もし「見える化」できたなら、教員がどんな思いで指導しているのか、生徒指導の背景にある言葉にならない葛藤や、教員たちの迷いまで、その一つ一つを知ってもらえたら、「そうだったのか」と理解してもらえはるはず。信頼して、そんな一歩から始ま

るのではないのでしょうか。

ほんの小さな理解であっても、それが教員に伝わると、教員の表情や声、かける言葉が変わる。そして、その変化を生徒たちは、驚くほど敏感に感じ取ります。保護者が教員を信じ、教員が生徒を信じる。すると、生徒は自分を信じ、行動できるようになる。そんな「信頼のドミノ」が起きたとき、家庭と学校がつながって、生徒を真ん中にした、温かな循環が始まるのです。

教育の最前線で

奮闘しているのは誰? 教育の最前線で奮闘しているのは、毎日、生徒と向き合い、悩んでいる現場の教員です。その最前線を支えるのが、校長や教頭といった管理職のほうです。30年近く現場にいて、管理職から「支えられた」と感じた経験はほんのわずかでした。もちろん、管理職の難しさも承知していますが、「支えられてい

る」と感じられたら、教員にとって何よりの安心になるはず。また、教育の最前線に立つもう一人は、家庭で子どもを育てる保護者です。家庭と学校の二つが子どもを支える大切な場です。家庭と学校がつながれば、子どもは安心して学び、育つことができる。そのためにこそ、校長、副校長、教頭には、教員や保護者に安心を与える「力」になってほしいのです。その力が、学校を、子どもたちの未来を変えていく。私はそう信じています。

この本が信頼のドミノを起す小さな一歩になってほしい。それが、私の願いです。

## なんで学校は変なの?

津久井聖志

「教員の父親に教育実習生の娘がストレートな質問!」学校のおかしさの本質に迫りつつ解決策を模索する。四六並製 二〇八頁 二四二〇円

『週刊教育資料』寄稿  
ISBN978-4-7948-1286-5

なんで学校は変なの?  
教員の父に教育実習生の娘がストレートな質問!  
子育ての悩みは「学校」が原因?  
子どもが抱えている二つの世界(家庭と学校)を繋ぐ

## 本を売る

## 書物

勤め先は一九四八年の創業で、お客さんの中には何十年も通いつけてくれている方、三代で通つてくれているご家族など、私が入社するずっと前からお店のことを知っている方が少なくない。そういった方々と店頭で話をする。日々の暮らしのことから本のことまで、本、書籍、書物と呼び方は様々あるが、お客さんが尊重の気持ちを含めて「書物」と言うとき、それはアルゼンチンの作家ホルヘ・ルイス・ボルヘスの書く「書物」と同様のものを指していて、ボルヘスとお客さんと店員（私）の三人で会話をしているという感覚になる。ボルヘスは、書物を、人間が作り出した様々な道具類の中でもっとも驚嘆すべきもので、人類の記憶と想像力の総体だと言った。書物において、言葉は声ではなく文字で記録される。古代の人々が考えていたように、書かれた言葉は声よりも力を持たないかもしれないが、音を伴わないゆえに、書物が見えない場所に身を移せば、人はその言葉に追われずに済む。情報が文字通り洪水のように溢れている現代において、自分のべ

スを守ることでできる空間の価値は小さくない。本屋の外の世界では、問いは畳み掛けられ、解は待たれない。態勢を整えることができないまま、解を出せと求められる。

そういった社会の中にあつて、本屋は、訪れる人に、考え、判断する時間の余裕を生む場所として機能し得る。時間の余裕は、無限である必要はない。人が物事を捉えるだけの、少しの余裕を作り出すことができれば役目は果たされる。一冊一冊の本に空間を分有させ、小声で語る者の言葉に立場を作る。量を整理し、それぞれの言葉が届くような環境を用意する。それもまた本屋の役割のひとつであるかもしれない。

「書物」は時に、一人の人間の命と等価かもしれない、とあるお客さんは言った。いま職場にある本の全てが「書物」と言えるだろうか。言えるのかもしれないと思う一方で、愛書家の手つきについて語ったボルヘスに倣えば、「書物」はほとんどないのではないかとも思う。「書物」と呼べるような本がどれだけあるのか、店頭で本を手にしなから、そう考えない日はない。

増田書店 篠田宏昭

本誌表示価格はすべて税込です。

## 書評日誌(11・20~12・20)

◎書評 ◎紹介 ◎関連記事

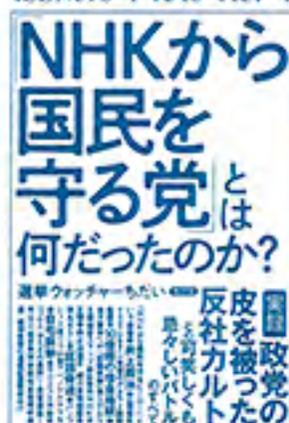
- 11・20 ◎中日新聞「訪問看護師ものがたり」(著者談)
- 11・27 ◎AERA DIGITAL → YAHOO! ニュース「NHKから国民を守る党」とは何だったのか?」(著者談)
- 11・29 ◎朝日新聞「価値を否定された人々」(共著者・中野智世氏、梅原秀元氏談)
- 11・30 ◎FRIDAY DIGITAL → YAHOO! ニュース「NHKから国民を守る党」とは何だったのか?」(著者談)
- 11 月 ◎月刊京都「ちょっと自慢できる京都の話」
- 12・12 ◎週刊金曜日「NHKから国民を守る党」とは何だったのか?」(著者寄稿)
- 12・20 ◎図書新聞「エコロジー階級

の登場についての覚書」(結城正実)

12月号 ◎自治総研「地方財政調整制度史」

◎学校生協の本やさん+「大作物語」<sup>プラス</sup>「答えのない教室パート2」

電子書籍も好評発売中  
ISBN978-4-7948-1197-4



「NHKから国民を守る党」とは何だったのか? 選挙ウォッチャーちだいの必読書

党首逮捕により崩壊秒読み段階に入ったN国党。覆轍を避けるためにいま読むべき唯一無二の記録。四六並製 二六〇頁 一六五〇円

## 本を読む

たった一つを変えるだけ  
 長年教員をしてきた者として、  
 大変に興味をそそられるタイトル  
 でした。いま質問力に関心がある  
 ので、本書の「質問づくり」には  
 ハッとさせられました。さっそく  
 今日の授業から取り入れてみます。  
 英語で特に役立ちそうです。

(さいたま市 教員 小河園子)

## 孤独死の看取り

人は誰かの世話になって死んで  
 いく。それは家族がいても、独り  
 でも同じである。死とはそれまで  
 の人生を生きなければならぬこ  
 とでもある。現在、私にはパート  
 ナーも子どももいる。当たり前だ  
 と思っていたことが実は奇跡なの  
 だということ、本書を読んで考  
 えさせられた。(日光市 団体職  
 員 笹沼賢二 57歳)

## 劇場としての書店

所沢市のある複合施設内に「本  
 棚劇場」という図書館があり、高  
 さ8メートルの巨大本棚がネット  
 でも話題となっている。いわば本  
 が主役の劇場というわけだ。一方、  
 筆者の言う「劇場」の意味合いは  
 それとは異なり、書店という舞台

で芝居を演じる役者たち、とりわ  
 けバイブレイヤーである書店員た  
 ちにスポットライトを当て、なぜ  
 彼ら彼女らが「主役」ではないの  
 かという点をひとつのテーマとも  
 している。接客場面での「ダメ出  
 し」では、自身の演劇経験を生か  
 した筆致が冴えわたる。これはあ  
 らゆるビジネスの現場に通じる、  
 筆者からのメッセージだと読み取  
 った。(杉並区 認定心理士 山  
 田良)

## 好評刊

## たった一つを変えるだけ

(クラスも教師も自立する「質問づくり」  
 タン・ロススタイン+ルース・サント  
 ナ/吉田新一郎 訳 二六四〇円)

## 孤独死の看取り

ドクターファンタスティック★嶋守さやか  
 二二〇〇円

## 山谷をめぐる旅

織田忍 二六四〇円

## 劇場としての書店

福嶋聡 二二〇〇円

## 森のムツレと悲しむ小鳥

カタリーナ・オルデンボーイ文/ライ  
 シュ・ベルステーン 絵  
 高見幸子・光橋翠 訳 一九八〇円

## 編集部から

簡単・時短・節約を旨とし、「やる  
 気1%でも作れる」炊飯器レシピ  
 が人気を博して久しい。新刊「炊  
 飯器で世界をめぐる「ハテナ井」  
 の旅」は、この身近で頼りになる  
 調理器で世界各地の料理を試作  
 /思索しつつ「問いを炊く」とい  
 う、奇妙奇天烈な不思議な筋立  
 て。「きょう何食べる？」と日々自  
 問するすべての人におくる唯一  
 無二の井文化論です！▼ホイッ  
 トマンに直接薫陶を受けた文学  
 者にして、T・ルーズベルト、エ  
 ジソン、フォードなど著名人の自  
 然探索に随行した経験を持つ稀  
 代のナチュラリストでもあるジ  
 ヨン・パロース。本邦初訳「鳥と  
 詩人」はその初期代表作の一つで  
 す。ぜひ既刊の北米野鳥画集「オ  
 ーデュボンの鳥」(パロースは彼  
 の伝記も書いています)と併せて  
 お楽しみください。

## 営業部から

▼2026年2月をもちまして、  
 新刊書籍への「読者アンケートハ  
 ガキ」の挿入を終了いた  
 します。今後は弊社  
 サイト内に開設した下  
 記専用フォームより、  
 ご感想ご意見をお寄せ  
 いただければ幸いです。

▼SBC(新評論ブッククラブ)会員  
 の皆様には、3月以降の新刊をこ  
 購入いただいた際は帯またはカバ  
 ー折り返し部分に印刷されたポイ  
 ント券を登録にご利用ください。  
 今後は新刊案内送付時にポイント  
 登録・ご感想投稿用の専用ハガキ  
 を同封いたしますので、所定の欄  
 にポイント券を貼って弊社までお  
 送りください。▼5冊ご購入(5ポ  
 イント登録)ごとにご希望の書籍  
 を1冊無料進呈するSBC会員様  
 限定の特典は、従来通りで変更は  
 ございません。

## SBC(新評論ブッククラブ)のご案内

会員は送料無料！各種特典あり！お申し込みを！

当クラブ(一九九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活  
 動内容をご紹介する月刊PR誌「新評論」を定期的に送付しております。  
 入会登録後、弊社書籍に挿入されたアンケートハガキもしくは帯等に印刷された  
 ポイント券を累計5枚お送りいただくことに、ご希望の本を1冊無料進呈する特典  
 もございます。  
 ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メール、またはハガキにて  
 お名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。  
 折り返し、SBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。

